

平成 30 年度 事業計画

児童養護施設 南山寮

1. 基本方針

- ・児童養護施設南山寮職員一同は、愛知育児院創設者の理念を継承しつつ、「人間性豊かな人間形成『いのちの輝き』を追求する」という基本指標を常に念頭に置き、子どもたちが心身ともに健やかに育つべく日々のケアに努めるとともに、社会的自立に向けて全力でサポートします。
- ・職員一同、常に権利擁護の立場に立ち、社会的養護の基本理念である「子どもの最善の利益のために」を念頭に、子どもたちに「あたりまえの生活」を保障し、権利と責任の大切さを伝えます。また、積極的に地域社会と関わり、地域住民に愛され、信頼される施設になります。
- ・児童相談所や子ども福祉課など関係機関との連携を強化し、アドミッションケア（入所前）からインケア（入所中）、リービングケア（自立支援）、アフターケア（退所後）までのパーマネンシープランニング（永続的養育計画）の充実に努めます。
- ・地球人として、「いのち」を大切に作る心、人との絆を大切に作る心、物を大切に扱う心を育てます。

2. 主な課題

- (1) 児童養護施設運営指針、児童養護施設における人権擁護のためのチェックリストおよび名古屋市子どもの権利ノートに照らし、今後もユニットの小規模化を進めていく中で、さらなる子どもたちの権利擁護の強化に努める必要があります。
- (2) 子どもたちの成育歴、心身状況や生活状況を丁寧に検証・把握すべくアセスメント（事前評価・査定）を行ない、自立支援計画の作成・評価・見直しを適宜実施し、パーマネントケア（永続的支援）の充実に努める必要があります。
- (3) 施設で暮らす子どもたちの「自立」が大きな課題となっています。施設退所後の就職、あるいは高等教育機関への進学を考慮した「自立支援（リービングケア）」、そして、退所後の「アフターケア」に向け、積極的に働きかける仕組み作りをする必要があります。
- (4) 子どもたちが自己肯定感と社会性を高めて他者との関わりの中でしっかりと生活し、社会のお役に立てる人間に成長できるように、虐待の連鎖・貧困の連鎖を防止するためにも、「いのち」の大切さ・「人の絆」の大切さをしっかりと学ぶ機会を提供する必要があります。
- (5) 子どもたちの健康と安心・安全を担保すべく、ヒヤリハットの検証も含め、事故・感染症・災害の発生を意識した取り組みを日常的に行い、リスクマネジメント（危機管理）に努める必要があります。また、子どもたちにとってより良いケアを提供すべく、職員一人ひとりの援助技術や専門性を高め、子どもに関わる職員としての資質を向上

させる研修計画を立て、施設全体の養育・支援の資質向上を図る必要があります。

3. 主な方策

- (1) 職員は日々子どもたちとの関わりの中で、常に権利擁護を第一義とし、子どもたちの安全・安心を保障します。
 - ・昨年度受審した第三者評価の結果を踏まえた改善
 - ・児童養護施設運営指針や南山寮倫理綱領の遵守、ヒヤリハットの検証、人権擁護のためのチェックリストの活用
 - ・名古屋市子どもの権利擁護委員会と連携するとともに、施設内の子どもの権利擁護委員会が主導する権利擁護の仕組みの構築とその活用
 - ・児童の意見表明権の保障の場として子どもサロン（子ども会議）の活動
 - ・児童の安全・安心を担保するため、計画的な研修受講による専門性の獲得、より良い実践の工夫、援助技術の獲得
 - ・携帯電話を所持する高校生を含め、児童に適切なインターネット利用の仕方を教育し、ネットによる被害の実態を職員自身も学ぶための検討機関として、IT委員会を設置
- (2) 入所児童のより豊かな“育ち”につながる自立支援計画を策定します。
 - ・当事者である子どもの意向や課題を明確にした自立支援計画の策定とその検証
 - ・日々の児童記録の充実と南山寮独自の1年間児童記録のまとめの作成と検証
 - ・心理士や児相福祉司などの専門職や関係機関との有機的連携
 - ・入所児童の学齢に合わせた性教育や人権教育の継続実施
- (3) 自立支援担当職員をキーマンとし、入所児童（特に中3から高3の児童）の自立支援および退所者支援を積極的に支援します。
 - ・名古屋市の自立支援機関「サポートいずみ」が主催するステップアップセミナーの有効活用
 - ・施設内にリービング&アフターケア委員会を立ち上げ、南山寮における自立支援、退所支援のあり方を検討するとともに、施設内の自立支援研修を開催
 - ・各種の招待行事や行楽行事にも自立支援に繋がる要素を付加することを検討
- (4) 地域に開かれた施設として地域社会とのコミュニケーションを図り、関係機関とのネットワークを強化して、子どもたちのより良き育ちを追求します。
 - ・児童福祉司や専門家を交えての施設内研修（性教育や怒りのコントロール）、ケースカンファレンス（事例検討会議）の実施
 - ・学校行事、町内会行事など地域社会への積極的な参加とふれあいホールの地域への開放
 - ・防災を軸とした町内会との連携および施設の防災防犯対策の充実
 - ・南山子ども会廃止に伴い、南山寮の子どもたち独自の地域交流会を模索
 - ・南山寮（の子どもたち）を支援してくださる人的資源のネットワーク作り
 - ・外部での表現活動（ダンスチームやバンド活動など）を通じての児童の人格形成
- (5) 南山寮の中長期計画を見直し、施設の小規模化および施設機能の地域分散化を追求します。

- ・昨年8月に厚生労働省から発出された「新しい社会的養育ビジョン」により、今後どのような変革が児童養護施設に求められるのかを俯瞰しつつ、家庭的養護推進計画にも大きな見直しが必要となるため、愛知育児院南山寮らしい未来像づくりを検討
 - ・小規模グループケアユニット4か所目および地域小規模児童養護施設2か所目の設置を中期計画として位置付ける。同時に、児童養護施設の本体機能をいかに地域社会に活かすことができるかを検討
- (6) 建築から20年経ち、経年劣化により施設設備の不具合が目立ちます。中長期にわたる施設設備整備計画を立てるとともに、入所児童と職員が一緒になって「エコ」に取り組む雰囲気を作ります。
- ・各ユニットのトイレや浴室の改修工事
 - ・園庭遊具の安全点検の結果を踏まえ、入替工事の検討
 - ・地盤沈下対策工事の実施
 - ・冷蔵庫等の家電製品の買い替え
 - ・児童の居室のベッドや学習機の買い替え
 - ・エコキャップ運動の継続

4. 行事予定

<会議>

職員会議・リーダー会議・各ユニット会議・スーパーバイザー会議・給食担当者会議
給食審議会 子どもの権利擁護委員会 リービング&アフターケア委員会
IT委員会 (以上月1回)
進路指導委員会 (年3~4回)・セラピスト (臨床心理士) との懇談会 (年2回)
児童相談所職員との懇談会 (年1回)

<月行事>

誕生会・避難訓練・夕食会

<年間行事>

児童健康診断 (6月・2月)・インフルエンザ予防接種 (10・11月実施)
フッ素塗布 (6月・11月・2月)・法人総合防災訓練 (年2回実施)
ユニット行楽行事・子どもサロン (性教育)・自立支援研修
各種招待行事参加 (スポーツ観戦や観劇・食事会等)
「山の家 (スキー・スノーボード)」 (1月)

<名古屋市児童養護施設連絡協議会の行事>

学童海の家 (篠島)・幼児海の家 (野間)・福祉絵画展・名養連フェスティバル
スポーツ大会 (ソフトボール・野球)・退所児童社会自立宿泊研修・フットサル大会
ステップアップセミナー (自立支援研修)

<研修>

- ・名古屋市児童養護施設連絡協議会主催の各種研修
- ・中部児童養護施設協議会や県社協児童ホーム部会等主催の各種研修
- ・全国児童養護施設長研究協議会

- ・外部講師を招聘しての施設内研修（性教育や怒りのコントロール等）

5. その他

- ・入所児童の定員数： 50名
- ・職員数： 44名（直接処遇職員24名 間接処遇職員6名
非常勤職員 14名）

平成 30 年度 事業計画

地域小規模児童養護施設 みなみ

1. 基本方針

- ・地域小規模児童養護施設みなみは、児童養護施設南山寮と同様に、職員一同愛知育児院創設者の理念を継承しつつ、「人間性豊かな人間形成『いのちの輝き』を追求する」という基本指標を常に念頭に置き、子どもたちが心身ともに健やかに育つべく日々のケアに努めるとともに、社会的自立に向けて全力でサポートします。
- ・職員一同、常に権利擁護の立場に立ち、社会的養護の基本理念である「子どもの最善の利益のために」を念頭に、子どもたちに「あたりまえの生活」を保障し、権利と責任の大切さを伝えます。また、地域に設置された分園として、南山寮以上に地域社会と積極的に関わり、地域住民からも愛され、信頼される「家庭」になります。
- ・児童相談所や子ども福祉課など関係機関との連携を強化し、入所中の自立支援はもちろん、退所後も含めたパーマネンシープランニング(永続的養育計画)の充実に努めます。
- ・地球人として、「いのち」を大切に作る心、人との絆を大切に作る心、物を大切に扱う心を育てます。

2. 主な課題

- (1) 南山寮におけるケア形態の小規模化の具体的な取り組みとして、一般の家屋を使用し、より家庭的な環境の中で生活し、南山寮の支援方針および課題をもとに、より密着した人間関係の中で、子ども一人ひとりの自立への成長、発達を援助することを目的とし、地域に根ざした運営をしていく必要があります。
- (2) 南山寮と同様に、さらなる子どもたちの権利擁護の強化に努めるとともに、子どもたちが自己肯定感と社会性を高めて他者との関わりの中でしっかりと生活し、社会のお役に立てる人間に成長できるように、「いのち」の大切さ・人の絆の大切さをしっかりと学ぶ機会を提供する必要があります。
- (3) 施設で暮らす子どもたちの「自立」が大きな課題となっています。南山寮と同様、施設退所後の就職、あるいは高等教育機関への進学を考慮した「自立支援(リービングケア)」そして、退所後の「アフターケア」に向け、積極的に働きかける仕組み作りをする必要があります。
- (4) 地域社会に根付いた生活環境を整え、地域住民の理解・協力・支援を仰ぎながら、安心・安全な生活を保障する必要があります。
- (5) 子どもたちにとって、より良く、より家庭的なケアを提供すべく、他施設の地域小規模児童養護施設の実践に学びつつも、「みなみ」独自の家庭的養育を目指し、職員一人ひとりが資質向上を図る必要があります。

3. 主な方策

- (1) 子どもたちが将来の自立に向け、「家庭」や「我が家」のイメージが持てるように、「おはよう」から「おやすみ」までの日常生活が、限りなく一般家庭に近いものとなる様、心掛けます。
- (2) 一般家庭と同じく衣・食・住を大切に、特に食に関しては、「食育」を意識しつつ、旬の食材の調達は勿論、子どもたちの目の前での食事作りやおやつ作り等に取り組みます。さらに、子どもたちが自発的に家事の手伝いに取り組むことのできる環境を活かし、自立後の一人暮らしに直結した支援ができるように努めます。
- (3) 町内会、地元のお祭り等、桜山・松栄学区の地域の行事に参加し、地域社会とのコミュニケーションを積極的に図る中で、子どもたちがご近所さんとの関わり方を自然に学ぶとともに、子どもたちの支援ネットワーク（＝「みなみ」の応援団）が自然と形成される環境作りを追求します。
- (4) 自立支援担当職員をキーマンとして入所児童（特に中3から高3の児童）の自立支援及び退所支援を積極的に支援します。
 - ・名古屋市の自立支援機関「サポートいずみ」が主催するステップアップセミナーの有効活用
 - ・南山寮におけるリービング&アフターケア委員会や自立支援研修への参加
- (5) 地域に開かれた施設として地域社会とのコミュニケーションを図り、関係機関とのネットワークを強化して、子どもたちのより良き育ちを追求します。
 - ・トワイライトルーム（放課後事業等）への参加により、異学年交流、地域の方々による交流活動や学びの活動を通じた、自主性・社会性・創造性等の醸成
 - ・今年度は校外活動指導委員として、PTA活動への積極的な協力
 - ・2名の高校生につき、近隣地域でのアルバイトを通じた社会経験の涵養と、自立に向けた資金の確保

4. 行事予定

<会議>

職員会議・リーダー会議・ホーム会議（以上月1回）
児童相談所職員との懇談会（年1回）・リービング&アフターケア委員会
給食審議

<月行事>

誕生日会・おでかけ夕食会・避難訓練

<年間行事>

トワイライトルーム（放課後事業等）行事・町内会行事
各種招待行事参加（スポーツ観戦や観劇・食事会等）
児童健康診断（6月・2月）・インフルエンザ予防接種（10・11月実施）
歯科検診（フッ素塗布）・ホーム行楽行事・みなみ海の家・みなみ宿泊旅行
山の家（スキー・スノーボード）

<名古屋市児童養護施設連絡協議会の行事>

退所児童自立支援宿泊研修・ステップアップセミナー（自立支援研修）

<研修>

- ・名古屋市児童養護施設連絡協議会主催の各種研修
- ・中部児童養護施設協議会や県社協児童ホーム部会等主催の各種研修
- ・外部講師を招聘しての施設内研修（性教育や怒りのコントロール等）

5. その他

- ・入所児童の定員数： 6名
- ・職員数： 3名（南山寮からの支援スタッフ4～5名）